様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２４ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2014～2015
課題番号：２６８８４００４

研究課題名（和文）流行神に見る宗教の「流行」と「不易」

研究課題名（英文）Fluidity and Immutability of Religion in Japanese Fashionable Gods

研究代表者
黄　緑萍（Huang, Lvping）

東北大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：８０７３２７３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、流行神に関して、新聞など文献資料の精査と個別な事例の収集と分析という二つの部分を実施した。まず流行神の一事例として取り上げた「貧乏神神社」の資料を整理、分析し、宗教学会で成果発表をした。また、中国の「筆仙」を流行神の事例として考察し、その調査結果は論文にまとめ、『東北宗教学』に投稿し、学会でも成果発表をした。そのほかに、文献資料の精査と個別の事例調査も進めたが、それらに関する研究成果は現在執筆中である。結果としては、現代の「流行神」の様相を示し、マスコミ、インターネットやツーリズムの働きを明らかにした上で、人と宗教との接し方及び現代人の宗教意識を浮き彫りにした。

研究成果の概要（英文）：This research carried out two portions, investigated literature data, such as a newspaper and collected individual examples.I arranged and analyzed the data of the "poor God shrine" as an example of fashionable Gods, and made a result announcement at the religion study meeting. Moreover, I also considered Chinese "Bixian" as an example of fashionable Gods, summarized the results of an investigation in the paper, and made a result announcement at study meetings. In addition, the result of research about other investigations is under writing now. Generally,After showing the aspect of present-day "fashionable Gods" ,I clarified the work of mass media, the Internet, and tourism . I also clarified religion consciousness of today, and the connection between people and religion.

研究分野：宗教学

キーワード：流行神　宗教　民俗　マスコミ　インターネット　ツーリズム

１．研究開始当初の背景

(1)、先行研究

流行神とは、宮田登（1972）の定義によると、突発的に流行し出し、一時期熱狂的な信仰を集め、その後急速に、信仰を消滅させてしまう神や仏であるとされる。そのような信仰対象は「神」か「仏」を問わず、「流行神（はやりがみ）」と一括して呼ばれてきた。流行神とは時代を問わずに通時的に見られるものであり、しかもそれを生み出したその時代の人々の持っている思考や行動を反映しているため、その時代の人々の信仰、意識や思想などを究明するには良い手がかりとなる。異なった社会状況のもとで様々な流行神が登場し、祈願対象となった神仏、祈願内容や祈願方法などが異なり、さらにその背後にある宗教意識にも相違が生じてしまうと考えられる。また、流行神は宗教の発生と伝播、及び民衆の信仰、意識や思想を究明するには重要な手がかりであり、それに関しては、早くも柳田國男（1910）と宮本常一（1940）は流行神の事例に注目し、その著作において流行神の事例を指摘した。その後宮田登は主に近世の流行神を対象に研究を行い、流行神を学術用語として定義した。氏の著作『近世の流行神』（1972）においては、流行神の諸現象を分析した上、その背後にあると予測される宗教意識・思想を終末観・世直し・メシアニズムと関連づけて考察を行った。後に、鈴木岩弓（1992）は宮田の定義に現代の視点の欠如を指摘し、現代の流行神とされる広島県府中市にある「首無地蔵」、岡山県横樋海岸にある「横樋観音」などの事例を取り上げ、流行神の流行のメカニズムを検討した。

(2)、研究の問題点

これまで宮田登による流行神に関する論考が最初で最大のものと考えることができるが、氏は宗教史学の視点で近世の文献資料を通して、主に近世の流行神を中心に考察を行なってきた。また地域で言えば、江戸に偏っていると言える。もう一つ大きな柱となっている鈴木岩弓の研究は、現代の視点で現在流行っている神仏の事例を検討したが、地域的には中国地方に集中していることが明らかである。さらに、流行神の構造と要因などを突き止めようとする村田典生（2011/2012）は、主として京都と東京周辺における近世と現代の事例を研究対象としている。要するに、①流行神研究は特定の時代と地域に偏り、未研究の空白地帯が多く存在しているのが現状である。②鈴木の研究以外では、歴史民俗学的な視点が重要視され、現時点で流行中の事例が閑却されてしまう傾向がある。

(3)、解決方策と研究結果

上記のことから、本研究はこれまでより総合的に流行神を分析するにあたって、文献分析と事例調査に着眼した。

文献分析：申請者はまず流行神の事例を集めるため、宮城県の地誌、随筆や紀行文などに焦点を当て精査を行った。その中、1930 年代に編纂された『郷土の伝承』に庶民の信仰を集める事例が数多く記載され、それを分析することを通して、流行神の生ずる土台を考察し、信仰対象の種類、由来、祈願内容、祈願方法などを明らかにしたものを 2012 年に論文化した。

事例調査：文献精査と共に、本研究は主に現在流行中の事例に注目し、その展開過程を究明するには現地調査に入った。特に、インターネットの発達に伴い、信者やファンはウェブサイトで祈願したり、霊験譚を発信したりするケースが増えているため、インターネットという新たな媒介を通して、いかなる傾向が見られるかを考察した。実証的な研究方法で、①仙台幸子（宮城県仙台市）、②「願いの宮」（大阪府大阪市）、③中国の「受験の神」（中国）、④「奥州仙臺七福神」（宮城県仙台市）、⑤貧乏神神社（長野県飯田市）などの事例の現地調査に入った。また、関係者への聞き取り、マスメディアの記事収集、採取した参拝者（祈願者）の芳名帳、祈願書や体験談など様々な記録の分析を実施することで、これらの神仏の発展経緯、マスメディアの関わり、参拝者（祈願者）の人数推移、分布、祈願内容、ご利益内容などが明らかとなった。さらに、従来の流行神との相違及びそこに見られる現代人の宗教的志向の変容が論じられた。現在、研究成果はすべて学会発表と共に論文化した。

２．研究の目的

本研究はこれまでの流行神をめぐる研究成果に踏まえ、さらに時間的と空間的に研究を広げ、以下の三点を明らかにすることを目的とした。

（1）流行神の体系：江戸時代の流行神の系譜が先行研究において論じられていたが（宮田登　1972）、それ以外に個別の事例が取り上げられ、体系的なものになっていない。しかし、流行神は時代を問わずに通時的に見られるものである。これまで言及されていない事例を再整理し、体系的に研究することは、流行神の性格と特性をより鮮明に浮き彫りにさせることが第一の目的であった。

（2）時代的特徴：流行神はそれを生み出したその時代の人々の持っている思考や行動を反映しているため、その時代の人々の信仰、意識や思想などを究明するには良い手がかりとなる。流動的に視点で捉えることにより、流行神の時代的特徴を把握するのが第二の目的であった。

（3）宗教意識の様相：宮田（1972）は、主に近世の流行神の諸現象を分析した上、その背後にある終末観・世直し・メシアニズムなどの宗教意識を指摘した。近現代の日本においては、どのような宗教意識と信仰構造が示されているかを明らかにするのが第三の目的であった。

３．研究の方法

本研究はマクロとミクロな視点で、文献資料の精査と個別な事例の現地の調査を行なってきた。

マクロな視点で－文献資料の精査：まず、近世の随筆や、明治時代に創刊された『読売新聞』（1874）や『朝日新聞』（1879）などの新聞紙を当時の世相を記録する良い資料として利用しながら、そのほかに、流行神に関連する現代の地方誌、随筆や紀行文、さらにインターネットという媒体も利用し、広範囲で文献資料の精査を行った。

ミクロな視点で－個別な事例の収集と分析：同時に申請者はミクロな視点で個別な事例を収集し分析を行った。明治時代の川崎大師の隆盛や疫病除け祈願の流行など具体的な事例に焦点を当て、関連史料と新聞記事の精査、参詣への参与観察、関係者への聞き取り、祈願内容資料の収集を実施した。

４．研究成果

26 年度では、流行神に関して、新聞など文献資料の精査と、個別な事例の収集と分析という二つの部分を実施した。

まず流行神の一事例として取り上げた「貧乏神神社」の資料を整理、分析し、宗教学会で成果発表をした。その後、四つの宗教施設（明治神宮、高岩寺、箱根神社と平間寺）と国立国会図書館を訪れ、現地調査と資料収集を行った。国立国会図書館においては、四つの宗教施設に関連する基本の資料を手に入れた。現地調査の際、宗教者と参拝者の話を伺い、すべての宗教施設に観光ツアーが多く訪れ、特に外国人参拝者（観光者）が大勢いることが分かった。更に、中国の「筆仙」を流行神の事例として考察した。中国東南大学の教員に有効なアドバイスをもらった上で、東南大学図書館と南京図書館で、「筆仙」に関する必要な研究論文を手に入れ、また、図書館の電子データベースを利用し、関連する新聞記事なども多く収集した。その調査結果は論文にまとめ、『東北宗教学』に投稿した。

27 年度では、これまでの研究成果を踏まえ、更に文献資料の精査と個別の事例調査を進めた。まず、文献資料は『読売新聞』や『朝日新聞』などの新聞紙だけではなく、流行神に関連する現代の地方誌、随筆や紀行文、さらにインターネットという媒体も利用し、広範囲で文献資料の精査を行った。

事例調査のほうは、これまでに調査した中国の「筆仙」を整理し、学会で研究結果を発表した。また、東北地方の徴兵除けと弾丸除け祈願、七福神と迎田家おきつね様などの事例も予定通りに調査を行った。これらに関する研究成果は現在執筆中である。結果としては、現代の「流行神」の様相を示し、マスコミ、インターネットやツーリズムの働きを明らかにした上で、人と宗教との接し方及び現代人の宗教意識を浮き彫りにした。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１　件）

①黄　绿萍、「『筆仙』とは何か：中国の流行現象に注目して」、『東北宗教学』第 10 号、東北大学宗教学研究室、査読有、2014、pp.19-37

〔学会発表〕（計　３　件）

①黄　绿萍、「「筆仙」とは何か―中国の流行現象に注目して―」、日本宗教学会第 74 回学術大会、2015 年 9 月 5 日、創価大学

②黄　绿萍、「中国の「こっくりさん」－「筆仙」の流行に関する考察」、宗教学印度学会第 57 回学術大会、2015 年 05 月 31 日、東北大学

③黄　绿萍、「流行神の誕生と展開―長野県飯田市貧乏神神社を事例に―」、日本宗教学会第 73 回学術大会、2014 年 9 月 13 日、同志社大学

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

黄　绿萍（Huang Lvping）

東北大学・大学院文学研究科・専門研究員

研究者番号：80732734

(2)研究分担者　なし

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者　なし
(　　)

研究者番号：